



プールの設定

- [プール \(1 ページ\)](#)
- [ID プール \(1 ページ\)](#)
- [プールの割り当て \(2 ページ\)](#)
- [プールの削除 \(3 ページ\)](#)
- [予約済みの識別子 \(3 ページ\)](#)
- [IP プール \(4 ページ\)](#)
- [MAC プール \(7 ページ\)](#)
- [UUID プール \(9 ページ\)](#)
- [WWN プール \(12 ページ\)](#)
- [IQN プール \(16 ページ\)](#)
- [リソース プール \(19 ページ\)](#)
- [仮想ルーティングおよび転送 \(23 ページ\)](#)

プール

プールは、ハードウェアリソースを一意に識別するための基本的な構成要素です。これらは UCS 管理モデルの基盤を形成し、アップストリーム LAN または SAN に対して同じ ID とプレゼンテーションを維持しながら、サーバー プロファイルとブレード サーバーの関連付けを可能にします。

プールは、リソースプールとアイデンティティ (ID) プールに分類されます。

プール テーブル ビューを使用すると、サーバー プールの使用率をモニターし、使用可能 ID および使用済み ID を追跡し、プールの容量と割り当てに関して情報に基づいた決定を行うことができます。

ID プール

ID プールはさらに、次のカテゴリに分類されます。

- **IP プール**：ネットワーク要素で実行されているサービスに IP アドレスを動的に割り当てる柔軟性を提供します。
- **MAC アドレス プール**：ネットワーク インターフェイス ポートの一意の ID を提供します。
- **UUID プール**：サーバー プロファイルに関連付けられた各サーバーに一意の ID を提供します。
- **WWNN および WWPN プール**：サーバ上のファイバ チャネル リソースの一意の ID を提供します（ファイバ チャネル ノードおよびポート）。
- **IQN プール**：iSCSI vNIC によってイニシエータ ID として使用される iSCSI 修飾名（IQN）の集合です。

プールの割り当て

複数の割り当て反復で一貫した反復可能な ID 割り当てを確保するために、プール割り当ての反復中に使用可能な最小の ID が順番に割り当てられます。

たとえば、ID の範囲が 1 ～ 20 のプールがあるとします。次の表では、ID の割り当てと再割り当ての反復について説明します。

使用例	動作
プールから 5 つの ID が要求されます	ID 1 ～ 5 が割り当てられます
1 ～ 5 個の ID がリリースされます	ID 1 ～ 5 がリリースされました
プールから 5 つの ID が要求されます	ID 1 ～ 5 が割り当てられます

一部の ID が組織の異なるプール間で共有される、重複するプールを持つことができます。ID はアカウント全体で一意であるため、異なる組織で使用されているかどうかにかかわらず、ID が 1 つのプールで使用されている場合は、使用されているすべてのプールでも **[使用済み**

(Used)] としてマークされます。プール テーブル表示には、割り当てられた ID の概要が表示され、組織全体のプールの ID 使用状況を追跡できます。[プール テーブル表示 (Pools Table View)] の [ソース (Source)] 列は、ID が割り当てられているプールを示します。ID が現在のプールから割り当てられている場合、[ソース (Source)] 列は [セルフ (Self)] としてマークされます。ID が別のプールから割り当てられている場合、[ソース (Source)] 列は [その他 (Other)] としてマークされます。

プールの削除

ID が割り当てられていない組織内のプールまたはアドレス ブロックを削除できます。別の組織のプールの割り当てには影響しません。

ステップ 1 ID が現在サーバプロファイルに関連付けられていないことを確認します。

- [**プール テーブル表示 (Pools Table View)**] で、[**ソース (Source)**] 列を確認してプールの使用状況を分析します。
- [**ソース (Source)**] が [**その他 (Other)**] とマークされている場合は、重複する他のプールから割り当てられている ID の削除に進むことができます。
- Source = Self** としてマークされたプールは、いずれかのプロファイルで使用されているため削除できないため、削除しないでください。

ステップ 2 [**削除 (Delete)**] をクリックします。

予約済みの識別子

IP アドレス、MAC アドレス、IQN、UUID、WWNN、および WWPN は、物理サーバーがサーバ プロファイルから取得する一般的な識別子です。

Intersight は、ポリシー、プロファイル、またはテンプレートを変更するときに、MAC、IQN、iSCSI IP などの LAN 接続ポリシー (LCP) ID、および WWPN や WWNN などの SAN 接続ポリシー (SCP) 識別子を保持するためにベストエフォートを使用します。。

LCP または SCP を、重複しない ID を持つ異なるプールにアクセスする新しいポリシーに変更する場合は、すべての ID が変更されることを想定してください。さらに、新しいプールに使用可能な正確な ID がない場合は、変更が予想されます。

次のシナリオでは、編集または変更中に ID の保持が期待できます。

- vNIC または vHBA を LCP または SCP に追加する場合。
- ポリシー LCP1/SCP1 を、同じプール参照を使用する LCP2/SCP2 に変更する場合。
- ポリシー LCP1/SCP1 を、異なるプール参照を使用するが、同じ ID が使用可能な LCP2/SCP2 に変更する場合。
- 静的識別子を使用するポリシー LCP1/SCP1 を、使用可能な同じ ID を持つプール参照を使用する LCP2/SCP2 に変更する場合。
- テンプレート T1 からサーバ プロファイルを切り離し、同じ ID を使用してサーバ プロファイルをテンプレート T2 に接続する場合。
- 上記のように、サーバ プロファイル テンプレートを編集し、LCP1/SCP1 を LCP2/SCP2 に変更する場合。

- 既存の LCP/SCP ポリシーを編集し、識別子参照を静的から使用可能な同じ ID を持つプールに変更する場合。

アイデンティティ予約

環境間の移行などの目的で、プールから特定の値を選択できるように、割り当ての前にアイデンティティを予約できます。たとえば、Cisco UCSM から IMM などです。

予約済み識別子のガイドライン

- 識別子は、[IMM 移行ツール \(IMM Transition Tool\)](https://intersight.com/apidocs/apirefs/macpool/Reservations/model/) を介して、または <https://intersight.com/apidocs/apirefs/macpool/Reservations/model/> などの使用可能なプール予約 API を使用してのみ予約できます。
- 識別子の予約は、ファブリック インターコネクト接続サーバーに対してのみ実行できます。
- 予約済み識別子は1回限りの使用を目的としており、消費されると予約プールから削除されます。

予約済みIDは、ポリシー（予約済みIDを含む）がサーバープロファイルに接続されたとき、またはサーバー プロファイルが展開されたときに消費されます。

[予約済み識別子 (Reserved Identifiers)] タブには、予約済み識別子の値、そのタイプ、および対応するプール メンバーシップのリストが表示されます。割り当てタイプが静的の場合、プール メンバーシップは空白で表示されます。予約済みの識別子を選択して削除できます。

IP プール

IP プールは、特定のネットワーク内の IP アドレスのシーケンシャル範囲です。複数のプールを設定できます。各プールに優先順位を設定し、グループに割り当てることができます。IP アドレスは、単一のプールまたはプールのグループから動的に割り当てることができます。IP アドレスの割り当てには、Least Recently Used (LRU) 方式が使用されます。各プールでは、アドレスはキューに配置されます。割り当て時には、キューの先頭のアドレスが割り当てられ、リリースされたアドレスはキューの最後に配置されます。IP プールは VRF 対応です。IP プールは、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方をサポートします。

IP プールの作成

IP プールは、サーバプロファイルなどの設定エンティティに割り当てることができる IP アドレスの集合を表します。IPv4 プールまたは IPv6 プール、あるいは両方を作成できます。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで、[プールの作成 (Create Pools)] > [IP] > [開始 (Start)] をクリックします。

[IP Pool] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 [General] ページで次の情報を追加します。

- [Organization] : IP プールの組織。
- [Name] : IP プールの名前。
- [Add Tag] : IP プールを識別して検索するためのタグ。
- [Description] : IP プールの説明。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。[IPv4 プールの詳細 (IPv4 Pool Details)] ページが表示されます。

a) [設定 (Configuration)] 領域で、IPv4 プールに関する次の設定情報を追加します。

- [IPv4 プールの設定 (Configure IPv4 Pool)] : IPv6 プールを設定する前に IPv4 プールを設定するには、このオプションを有効にします。
- [ネットマスク (Netmask)] : IP プールに関連付けられたネットマスク。
- [ゲートウェイ (Gateway)] : IP プールのゲートウェイの IP アドレス。

(注) IP プールを IMC アクセス ポリシーに使用する場合は、IP プールで指定されたゲートウェイ IP アドレスに Cisco IMC への接続があることを確認してください。

- [プライマリ DNS (Primary DNS)] : この IP アドレスのブロックがアクセスする最初の DNS サーバです。
- [セカンダリ DNS (Secondary DNS)] : この IP アドレスのブロックがアクセスする 2 番目の DNS サーバです。

a) [IP ブロック (IP Blocks)] 領域に次の設定情報を追加します。

- [From] : ブロック内の IP アドレスを示します。
- [サイズ (Size)] : このブロックが保持できる識別子の数を示します。
- [追加 (+) (Add (+))] : 新しいブロックに開始 IP アドレスと IP アドレスの総数を追加できます。

ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。[IPv6 Pool Details (IPv4 プールの詳細)] ページが表示されます。

a) [設定 (Configuration)] 領域で、IPv6 プールに関する次の設定情報を追加します。

- [プレフィックス (Prefix)] : IP プールに関連付けられたプレフィックス。
- [ゲートウェイ (Gateway)] : IP プールのゲートウェイの IP アドレス。

(注) IP プールを IMC アクセス ポリシーに使用する場合は、IP プールで指定されたゲートウェイ IP アドレスに Cisco IMC への接続があることを確認してください。

- [プライマリ DNS (Primary DNS)] : この IP アドレスのブロックがアクセスする最初の DNS サーバです。
- [セカンダリ DNS (Secondary DNS)] : この IP アドレスのブロックがアクセスする 2 番目の DNS サーバです。

a) [IP ブロック (IP Blocks)] 領域に次の設定情報を追加します。

- [From] : ブロック内の IP アドレスを示します。
- [サイズ (Size)] : このブロックが保持できる識別子の数を示します。
- [追加 (+) (Add (+))] : 新しいブロックに開始 IP アドレスと IP アドレスの総数を追加できます。

ステップ 5 [作成 (Create)] をクリックします。

新しく作成された IP プールが IP プールのリストに表示されます。

IP プールの詳細

詳細

IP プールのリストを表示します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
[詳細 (Details)]	
[名前 (Name)]	IP プールの名前を表示します。
[タイプ (Type)]	プールのタイプを表示します。
[サイズ (サイズ)]	IP プールに含まれる ID の総数を表示します。
[使用済み (Used)]	使用されて使用できなくなった IP プール内の識別子の総数を表示します。
予約済み	後で使用するために予約されている IP プール内の識別子の総数を表示します。
応対可	使用可能な IP プール内の識別子の総数を表示します。
[説明 (Description)]	IP プールの説明。
[最終更新 (Last Update)]	IP プールが最後に更新された日時。
[組織 (Organization)]	[デフォルト (Default)] 組織のユーザは、ユーザアカウントで使用可能なすべてのリソースにアクセスできます。
設定	
IPv4	サブネットマスク、デフォルト ゲートウェイ、プライマリ DNS、セカンダリ DNS など、プールの IPv4 の詳細を表示します。
IPv6	プレフィックス、デフォルト ゲートウェイ、プライマリ DNS、セカンダリ DNS など、プールの IPv6 の詳細を表示します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
移行前	プールの開始 IP を表示します。 Note Cisco Intersight は、ID を順番に選択します。つまり、プールから使用可能な最も低い ID を選択します。
移行後	ブロック サイズの範囲を表示します。 Note この値は、IP プール サイズ プロパティに依存します。
[サイズ (Size)]	IP プール サイズを表示します。
使用量	
IP、VRF、サーバー プロファイル、およびソース	IP アドレス、VRF インスタンス、使用状況（予約済みまたは使用済み）、および関連するサーバー プロファイルを表示します。 ソース (Source) は Self または Other にできます。ここで、 Self はこのプールによって使用または予約されている ID であり、 Other は静的にまたは別のプールによって使用または予約されている ID です。
[アクション (Actions)]	
[編集 (Edit)]	IP プールの設定の詳細を追加または変更できます。
[削除 (Delete)]	IP プールを削除できます。

MAC プール

MAC プールは、ネットワーク ID (MAC アドレス) の集合です。MAC アドレスはレイヤ 2 環境では一意で、サーバの vNIC に割り当てることができます。サーバプロファイルで MAC プールを使用する場合は、サーバプロファイルに関連付けられたサーバでできるように MAC アドレスを手動で設定する必要はありません。

サーバに MAC アドレスを割り当てるには、vNIC を LAN 接続ポリシーに追加すると同時に MAC プールを含める必要があります。その後、LAN 接続ポリシーは、そのサーバに割り当てられたサーバプロファイルに取り込まれます。

MAC プールの作成

MAC プールは、サーバ プロファイルの vNIC に割り当てることができる MAC アドレスの集合を表します。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで **[プール (Pools)]** > **[MAC]** > **[MAC プールの作成 (Create MAC Pool)]** をクリックします。

[MAC Pool] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 **[General]** ページで次の情報を追加します。

- **[Name]** : MAC プールの名前
- **Description** MAC プールの説明。
- **Organization** : MAC プールが属する組織。
- **[タグの追加 (Add Tag)]** : MAC プールを識別して検索するためのタグ。

ステップ 3 **[次へ (Next)]** をクリックします。 **[プール詳細 (User Details)]** ページが表示されます。

ステップ 4 **[MAC Blocks]** 領域に次の設定情報を追加します。

- **[From]** : ブロック内の最初の MAC アドレスを示します。
- **[Size]** : ブロック内の MAC アドレスの数。

ステップ 5 ブロックを追加するには、**[+]** をクリックして、新しいブロックの開始 MAC アドレスと MAC アドレスの総数を追加します。

ステップ 6 **[作成 (Create)]** をクリックします。

新しく作成された MAC プールが MAC プールのリストに表示されます。

MAC プールの詳細

詳細

MAC プールのリストを表示します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
[名前 (Name)]	MAC プールの名前。
[サイズ (Size)]	プール内の MAC アドレスの数。
[使用済み (Used)]	プール内の使用済みのため使用不可能な MAC アドレスの数。
予約済み	後で使用するために予約されている MAC プール内の識別子の総数を表示します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
対応可	使用可能な MAC プール内の識別子の総数を表示します。
[説明 (Description)]	MAC プールの説明。
[最終更新 (Last Update)]	MAC プールが最後に更新された日時。
設定	
移行前	プールの MAC プレフィックス値を表示します。 Note Cisco Intersight は、ID を順番に選択します。つまり、プールから使用可能な最も低い ID を選択します。
移行後	プールの MAC サフィックス値を表示します。
[サイズ (Size)]	MAC プール サイズを表示します。
使用量	
MAC アドレス、ステータス、サーバー プロファイルおよびソース (MAC Address, Status, Server Profile, and Source)]	MAC アドレス、使用状況 (予約済みまたは使用済み) 、および関連するサーバー プロファイルを表示します。 ソース (Source) は Self または Other にできます。ここで、 Self はこのプールによって使用または予約されている ID であり、 Other は静的にまたは別のプールによって使用または予約されている ID です。
[アクション (Actions)]	
[編集 (Edit)]	MAC プールの設定の詳細を追加または変更できます。
削除	MAC プールを削除できます。

UUID プール

Universally Unique Identifier (UUID) プールは、サーバーに割り当てられる UUID のコレクションです。UUID のプレフィックスとサフィックスは可変値です。UUID プールは、特定のプールを使用するサーバープロファイルに関連づけられた各サーバーについて、これらの変数が一意であることを保証して競合を回避します。



- (注) ・サポートされているサーバーと、UUID プールに必要な最小ファームウェアまたは Cisco IMC バージョンを以下に示します。

サーバ	ファームウェアの最小バージョン
Cisco UCS-B200-M5、UCS-B480-M5、Cisco UCS UCS-B200-M6	4.2(1b)
Cisco UCS-C220-M6、UCS-C240-M6	4.2(1b)
Cisco UCS-C225-M6、UCS-C245-M6	4.2(1i)
Cisco UCSX-210C-M6	5.0(1a)

- ・UUID プールを使用したサーバープロファイルの関連付けの詳細については、「[サーバープロファイルの構成](#)」を参照してください。

UUID プールの作成

UUID プールは、サーバープロファイルに割り当てることができる UUID アイテムのコレクションを表します。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで **[プール (Pools)] > [UUID] > [UUID プールの作成 (Create UUID Pool)]** をクリックします。

[UUID プール(UUID Pool)] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 **[全般 (General)]** ページで次の情報を追加します。

- ・**[組織 (Organization)]** : UUID プールが属する組織。
- ・**[名前 (Name)]** : UUID プールの名前。
- ・**[セット タグ (Set Tags)]** : UUID プールの識別と検索のためのオプションのタグ。
- ・**[説明 (Description)]** : UUID プールのオプションの説明。

ステップ 3 **[次へ (Next)]** をクリックします。**[プール詳細 (User Details)]** ページが表示されます。

ステップ 4 **[構成 (Configuration)]** セクションで、UUID プレフィックス番号を 16 進形式で追加します。例、1728E8C7-7B40-47E8

ステップ 5 **[UUID ブロック (UUID Blocks)]** セクションで、次の構成の詳細を追加します。

- ・**[開始 (From)]** : ブロックの UUID サフィックス番号を 16 進形式で示します。例、9EDE-0E52924AC87A
- ・**[サイズ (Size)]** : このブロックの UUID 識別子の数を示します。範囲は 1 ~ 1000 です。

ステップ 6 さらにブロックを追加するには、**[+]** をクリックし、開始 UUID サフィックスと UUID 識別子の総数を新しいブロックに追加します。

ステップ7 [作成 (Create)] をクリックします。

新しく作成された UUID プールが UUID プールのリストに表示されます。

UUID プールの詳細

詳細

UUID プールのリストを表示します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
[詳細 (Details)]	
[名前 (Name)]	UUID プールの名前を表示します。
[タイプ (Type)]	プールのタイプを表示します。
[サイズ (サイズ)]	UUID プールに含まれる ID の総数を表示します。
[使用済み (Used)]	プールから既に使用されている UUID の数を表示します。
予約済み	後で使用するために予約されている UUID の総数を表示します。
[応答可能 (Available)]	使用可能な UUID の数を表示します。
[最終更新 (Last Update)]	UUID プールが最後に更新された日時。
説明	UUID プールの説明。
[組織 (Organization)]	UUID プールが作成される組織を表示します。
コンフィギュレーション	
UUIDプレフィクス	プールの UUID プレフィックス値を表示します。
[先頭 (From)]	プールの UUID サフィックス値を表示します。 Note Cisco Intersight は、ID を順番に選択します。つまり、プールから使用可能な最も低い ID を選択します。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
移行後	ブロック サイズの範囲を表示します。 Note この値は、UUID プールサイズプロパティに依存します。
[サイズ (Size)]	UUID プール サイズを表示します。
使用量	
UUID、ステータス、サーバー プロファイル、およびソース	サーバー プロファイルに割り当てられた UUID、使用状況（予約済みまたは使用済み）、および関連するサーバー プロファイルを表示します。 ソース (Source) は セルフ (Self) または その他 (Other) にできます。ここで、 セルフ (Self) はこのプールによって使用または予約されている ID であり、 その他 (Other) は静的にまたは別のプールによって使用または予約されている ID です。

WWN プール

World Wide Name (WWN) プールは、Cisco UCS ドメイン内のファイバチャネル vHBA で使用される WWN の集合です。次の独立したプールを作成します。

- サーバに割り当てられる WW ノード名
- サーバに割り当てられる WW ポート名



(注) WWN ID は、WWPN および WWNN プール間で再利用できません。SAN ファブリックで Cisco UCS WWNN と WWPN を確実に一意にするために、Cisco Intersight では、プールのすべてのブロックに WWN プレフィックス 20:00:00:25:B5:xx:xx:xx を使用します。

サーバプロファイルで WWN プールを使用する場合は、サーバプロファイルに関連付けられたサーバで使用される WWN を手動で設定する必要はありません。複数のテナントを実装するシステムでは、WWN プールを使用して、各組織で使用される WWN を制御できます。WWN をブロック単位でプールに割り当てます。

WWNN プール

WWNN プールは、WW ノード名だけを含む WWN プールです。サーバプロファイルに WWNN のプールを含める場合、関連付けられたサーバには、そのプールから WWNN が割り当てられます。

WWPN プール

WWPN プールは、WW ポート名だけを含む WWN プールです。サーバプロファイルに WWPN プールを含めると、関連付けられているサーバの各 vHBA のポートには、そのプールから WWPN が割り当てられます。

WWNN プールの作成

SAN ファブリックで Cisco UCS WWNN と WWPN を確実に一意にするために、Cisco Intersight では、プールのすべてのブロックに WWN プレフィックス 20:00:00:25:B5:xx:xx:xx を使用します。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで、[プール (Pools)] > [WWNN] > [WWNN プールの作成 (WWNN Pool)] をクリックします。

[WWNN Pool] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 [General] ページで次の情報を追加します。

- **Name** : WWNN プールの名前
- **Description** WWNN プールの説明。
- **Organization** : WWNN プールが属する組織のオプション エントリ。
- **[タグの追加 (Add Tag)]** : WWNN プールを識別して検索するためのタグ。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。[プール詳細 (User Details)] ページが表示されます。

ステップ 4 [イニシエータブロック (Initiator Blocks)] 領域に次の設定情報を追加します。

- **[開始 (From)]** : ブロックの最初の WWN ID を示します。
- **[サイズ (Size)]** : ブロックに含めることができる識別子の最大数を示します。

ステップ 5 ブロックを追加するには、[+] をクリックし、ブロックに含めることができる開始 WWN ID と ID の最大数を追加します。

ステップ 6 [作成 (Create)] をクリックします。

新しく作成された WWNN プールが WWNN プールのリストに表示されます。

WWNN プールの詳細

詳細

WWNN プールのリストを表示します。SAN ファブリックで Cisco UCS WWN の一意性を確保するために、20:00:00:25:b5:0:00:01 という形の WWN プレフィックスを使用することをお勧めします。

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
[名前 (Name)]	WWNN プールの名前
[サイズ (Size)]	プール内の WWNN の総数。
[使用済み (Used)]	プール内で使用済みのため使用できない WWNN の数。
予約済み	後で使用するために予約されているプール内の WWNN の総数を表示します。
使用可能	使用可能なプール ハット内の WWNN の総数を表示します。
[説明 (Description)]	WWNN プールの説明。
[最終更新 (Last Update)]	WWNN プールが最後に更新された日時。
設定	
移行前	<p>プールの WWNN プレフィックス値を表示します。</p> <p>Note Cisco Intersight は、ID を順番に選択します。つまり、プールから使用可能な最も低い ID を選択します。</p>
移行後	プールの WWNN サフィックス値を表示します。
[サイズ (サイズ)]	WWNN プール サイズを表示します。
Usage	

プロパティ (Property)	基本情報 (Essential Information)
識別子、ステータス、サーバー プロファイル、およびソース	WWNN、使用状況(予約済みまたは使用済み)、および関連するサーバー プロファイルを表示します。 ソース (Source) は Self または Other にできます。ここで、 Self はこのプールによって使用または予約されている ID であり、 Other は静的にまたは別のプールによって使用または予約されている ID です。
[アクション (Actions)]	
[編集 (Edit)]	WWNN プールの構成の詳細を追加または変更できます。
削除	WWNN プールを削除できます。

WWPN プールの作成

SAN ファブリックで Cisco UCS WWNN と WWPN を確実に一意にするために、Cisco Intersight では、プールのすべてのブロックに WWN プレフィックス 20:00:00:25:B5:xx:xx:xx を使用します。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで、[プール (Pools)] > [WWNN] > [WWPN プールの作成 (WWPN Pool)] をクリックします。

[WWPN プール (WWPN Pool)] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 [全般 (General)] ページで次の情報を追加します。

- [名前 (Name)] : WWPN プールの名前
- [説明 (Description)] : WWPN プールの説明。
- [組織 (Organization)] : WWPN プールが属する組織のエントリ (オプション) 。
- [タグの追加 (Add Tag)] : WWPN プールを識別して検索するためのタグ。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。[プール詳細 (User Details)] ページが表示されます。

ステップ 4 [イニシエータブロック (Initiator Blocks)] 領域に次の設定情報を追加します。

- [開始 (From)] : ブロックの最初の WWN ID を示します。
- [サイズ (Size)] : ブロックに含めることができる識別子の最大数を示します。

ステップ 5 ブロックを追加するには、[+] をクリックし、ブロックに含めることができる開始 WWN ID と ID の最大数を追加します。

ステップ 6 [作成 (Create)] をクリックします。

新しく作成された WWPN プールが WWPN プールのリストに表示されます。

WWPN プールの詳細

詳細

WWPN プールのリストを表示します。SAN ファブリックで Cisco UCS WWPN の一意性を確保するために、20:00:00:25:b5:0:00:01 という形の WWN プレフィックスを使用することをお勧めします。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
[名前 (Name)]	ワールドワイドポート名 (WWPN) プールの名前。
[サイズ (サイズ)]	プール内の WWPN の総数。
[使用済み (Used)]	プール内で使用済みのため使用できない WWPN の数。
[説明 (Description)]	WWPN プールの説明。
[最終更新 (Last Update)]	WWPN プールが最後に更新された日時。

IQN プール

IQN プールは、iSCSI vNIC によってイニシエータ ID として使用される iSCSI 修飾名 (IQN) の集合です。IQN プールメンバの形式は、*prefix:suffix:number* であり、接頭辞、接尾辞、および番号のブロック (範囲) を指定できます。

IQN プールには、番号の範囲やサフィックスが異なる (ただし、プレフィックスは共通している) 複数の IQN ブロックを含めることができます。

IQN プールの作成

IQN プールは、イニシエータ ID として使用される iSCSI 修飾名 (IQN) の集合です。IQN プールの詳細は、IQN 識別子のブロックを設定するために使用されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	左側のナビゲーションパネルで、[プールの作成 (Create Pools)] > [IQN] > [開始 (Start)] をクリックします。	[IQN プール (IQN Pool)] ウィザードが表示されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<p>[全般 (General)] ページで次の情報を追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [組織 (Organization)] : IQN プールの組織。 • [名前 (Name)] : IQN プールの名前。 • [タグの追加 (Add Tag)] : IQN プールを識別して検索するためのタグ。 • [説明 (Description)] : IQN プールの説明。 	
ステップ 3	[次へ (Next)] をクリックします。[プール詳細 (User Details)] ページが表示されます。	
ステップ 4	<p>[設定 (Configuration)] 領域で、IQN プールに関する次の設定情報を追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : このプール用に作成された IQN ブロックのプレフィックス。IQN プレフィックスは「iqn-yyy-mm.<命名機関>」の形式にする必要があります。通常、命名機関は、命名機関のインターネットドメインの逆構文です。例、iqn1.2021-01.alpha.com • [サフィックス (Suffix)] : IQN のこのブロックのサフィックス。 1 ～ 64 文字を入力します。任意の文字や数字、および次の特殊文字を使用できます：（ピリオド）、：（コロン）、-（ハイフン）。 • [開始 (From)] : ブロック内の最初の iSCSI Qualified Name (IQN) サフィックス。 • [サイズ (Size)] : このブロックが保持できる識別子の数。 	

新しく作成された IQN プールが IQN プールのリストに表示されます。

IQN プールの詳細

詳細

IQN プールのリストを表示します。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
[詳細 (Details)]	
[名前 (Name)]	IQN プールの名前を表示します。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
[タイプ (Type)]	プールのタイプを表示します。
[サイズ (Size)]	IQN プールに含まれる識別子の総数を表示します。
[使用済み (Used)]	プールから既に使用されている識別子の数を表示します。
予約済み	後で使用するために予約されている識別子の総数を表示します。
応対可	使用可能な識別子の数を表示します。
[説明 (Description)]	IQN プールの説明。
[最終更新 (Last Update)]	IQN プールが最後に更新された日時。
[組織 (Organization)]	[デフォルト (Default)] 組織のユーザは、ユーザアカウントで使用可能なすべてのリソースにアクセスできます。
[タグ (Tags)]	プールのタグを表示します。
[設定 (Configuration)]	
[プレフィックス (Prefix)]	このプール用に作成された IQN ブロックのプレフィックスを表示します。
[サフィックス (Suffix)]	この IQN ブロックのサフィックスを表示します。
[先頭 (From)]	ブロック内の最初の接尾辞番号。 (注) Cisco Intersight は、ID を順番に選択します。つまり、プールから使用可能な最も低い ID を選択します。
[保持数 (To)]	ブロックが保持できる識別子の数。
[使用 (Usage)]	

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
IQN アドレス、ステータス、サーバー プロファイルおよびソース (IQN Address, Status, Server Profile, and Source)]	<p>IQN アドレス、使用状況 (予約済みまたは使用済み)、および関連するサーバー プロファイルを表示します。</p> <p>ソース (Source) は Self または Other にできます。ここで、Self はこのプールによって使用または予約されている ID であり、Other は静的にまたは別のプールによって使用または予約されている ID です。</p>
[アクション (Actions)]	
[編集 (Edit)]	IQN プールの設定の詳細を追加または変更できます。
[削除 (Delete)]	IQN プールを削除できます。

リソース プール

プールを使用すると、リソース (サーバーおよびその他のエンドポイント) をより効率的に論理的にグループ化し、管理することができます。サーバーをリソースプールに割り当て、サーバー プロファイルの自動割り当てを続行できます。リソース プールを使用したサーバー プロファイルの関連付けの詳細については、「サーバー プロファイルの構成」を参照してください。

永続的なリソース プールの割り当て

プールの一部であるサーバーがデコミッションされると、[リソース プールの詳細 (Resource Pool Details)] ビュー および [サーバーの詳細 (Server Details)] ビュー の [デコミッションされたリソース (Decommissioned Resources)] セクションに表示されます。サーバーが再稼働すると、同じプールに再度割り当てられます。サーバーを停止し、別のシャースまたはスロットに移動してから再稼働した場合も、同じ動作が発生します。したがって、展開環境で物理的な変更が発生した場合に、そのサーバーのプールの再割り当てを管理する必要はありません。



- (注) 既存のリソースプールを永続的なリソースプールに変換するには、[リソースプール (Resource Pool)] を編集します。

API または Terraform ユーザーの動作の変更

API または Terraform ユーザーは、API を使用して、管理対象オブジェクト ID (MOID) またはシリアルセクタを使用して新しいリソースプールを作成できます。

ただし、API ユーザーが UI から MOID を使用するリソースプールを編集して、永続的なリソースプールの割り当てを有効にすると、システムはこれらの MOID セクタをシリアルセ

レクタに内部的に変換し、MOID は API を介してアクセスできなくなります。リソース プールを作成するためのペイロードの詳細については、[API ドキュメント](#)を参照してください。



(注) リソース プールの編集オプションを使用する際、リースがアクティブであるリソースはリソース プールから削除できません。

リソース プールの作成

リソース プールは、サーバー プロファイルなどの設定エンティティに割り当てることができるリソース アドレスの集合を表します。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで、**[プールの作成 (Create Pools)] > [リソース (Resource)] > [開始 (Start)]** をクリックします。

[リソース プール (Resource Pool)] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 **[全般 (General)]** ページで次の情報を追加します。

- **[組織 (Organization)]** : リソース プールの組織。
- **[名前 (Name)]** : リソース プールの名前。
- **[ターゲット プラットフォーム (Target Platform)]** : UCS スタンドアロン サーバーまたは UCS FI アタッチ サーバーとしてのターゲット プラットフォーム タイプ。
- **[セット タグ (Set Tags)]** : リソース プールを識別して検索するためのタグ。
- **[説明 (Description)]** : リソース プールの説明。

ステップ 3 **[次へ (Next)]** をクリックします。**[リソース プールの詳細 (Resource Pool Details)]** ページに、ターゲット プラットフォーム タイプに基づいて検出されたサーバーのリストが表示されます。

ステップ 4 **[リソース 選択 (Resource Selection)]** テーブルからサーバーを選択します。

ステップ 5 **[作成 (Create)]** をクリックします。

新しく作成されたリソース プールがリソース プールのリストに表示されます。

リソース プールの詳細

[詳細 (Details)] - リソース プールの詳細を表示します。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
[詳細 (Details)]	
[名前 (Name)]	リソース プールの名前を表示します。
[タイプ (Type)]	プールのタイプを表示します。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
[サイズ (Size)]	リソース プールに含まれるリソースの総数を表示します。
[使用済み (Used)]	使用済みで使用できないリソースの数を表示します。
[応答可能 (Available)]	使用可能なリソースプールの数を表示します。
[最終更新 (Last Update)]	リソース プールが最後に更新された日時。
リソース	
タイプ (Type)	リソース プールのタイプを表示します。 (注) 現在、Intersight は、リソース プールのリソースとしてサーバー タイプのみをサポートしています。
選択項目	リソース プールの選択タイプを表示します。現在、手動 (静的) 選択のみがサポートされています。
ターゲットプラットフォーム	ターゲット名を表示します。これには、次のいずれかがあり得ます。 <ul style="list-style-type: none"> • スタンドアロン • FI接続
説明	リソース プールの説明。
[組織 (Organization)]	リソース プールが作成される組織を表示します
コンフィギュレーション (注) リソースプールの構成プロパティは、関連付けられているリソースタイプによって異なります。	
ステータス (Status)	リソースの状態を表示します。次のいずれかが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • [使用可能 (Available)] — リソースが使用可能であることを示します。 • [使用済み (Used)] — リソースがリソース プールですでに使用されていることを示します。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
<p>[デコミッションされたリソース (Decommissioned Resources)] : このセクションには、デコミッションされたサーバーの詳細が表示されます。</p> <p>(注) このセクションは、サーバーがデコミッションされ、すでにリソースプールの一部になっている場合にのみ表示されます。</p>	
名前	デコミッションされたサーバーの名前を表示します。
[タイプ (Type)]	サーバーが Cisco UCS C シリーズ サーバーか Cisco UCS B シリーズ サーバーかを表示します。
ID	デコミッションされたサーバーに割り当てられた一意のIDを表示します。このフィールドは、Cisco UCS C シリーズ サーバーにのみ適用されます。
モデル (Model)	サーバーのモデルを表示します。
シリアル番号	サーバーのシリアル番号を表示します。
廃止日	サーバーがデコミッションされたときのタイムスタンプを表示します。
[使用 (Usage)]	
リソース名 (Resource Name)	リソース名を表示します。
リースエンティティ	<p>構成エンティティを表示します。</p> <p>(注) リソースはさまざまなプールの一部にすることができますが、1つのリースエンティティにのみ関連付けることができます。</p>
使用例	リソースのコンシューマーを表示します。例、サーバー プロファイル。

[プロパティ (Property)]	[基本情報 (Essential Information)]
リソース使用状況	<p>リソース消費タイプを表示します。次のタイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在 (Current) — リソースは、現在のリソース プールに関連付けられて使用されています。 • 他のプール (Other Pool) — リソースは他のプールに関連付けられて使用されています。 • 直接 (Direct) — リソースは、リソース プールを使用せずにサーバー プロファイルに直接関連付けられます。



(注) リソースプールの編集オプションを使用する際、リースがアクティブであるリソースはリソース プールから削除できません。

仮想ルーティングおよび転送

仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) は、同じルータ上で同時に複数のインスタンスのルーティング テーブルを共存させるための IP テクノロジーです。ルーティング インスタンスが互いに独立しているため、同じ (重複する) IP アドレスを競合することなく使用できます。VRF は、IP アドレス管理用の名前空間を作成します。Cisco Intersight では、IP プールは VRF に対応しています。

VRF ガイドライン

VRF インスタンスには、次の注意事項と制限が適用されます。

- Intersight は、アカウントのデフォルト VRF を作成し、このデフォルト VRF のコンテキスト内で IP アドレスの割り当てを管理します。
- 単一の VRF インスタンス内では、各 IP アドレスが一意である必要があります。異なる VRF インスタンス間では IP アドレスが重複してもかまいません。
- VRF インスタンス間で IP プールを共有する場合は、IP アドレスが重複していないことを確認してください。

VRF インスタンスの作成

仮想ルーティングおよびフォワーディング（Virtual Routing and Forwarding、VRF）は、単一のネットワーク エンティティ内に複数の仮想ネットワークを作成する技術です。

ステップ 1 左側のナビゲーションパネルで、[仮想ルーティングおよびフォワーディング（Virtual Routing And Forwarding）]>[VRFs]>[VRF の作成（Create VRF）]をクリックします。

[VRF] ウィザードが表示されます。

ステップ 2 [全般（General）] ページで次の情報を追加します。

- [名前（Name）] : VRF インスタンスの名前。
- [説明（Description）] : VRF インスタンスの説明（オプション）。
- [組織（Organization）] : VRF インスタンスが属する組織（オプション）。
- [タグの追加（Add Tag）] : VRF プールを識別して検索するためのタグ。

ステップ 3 [作成（Create）] をクリックします。

新しく作成された VRF インスタンスが VRF のリストに表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。